

## 芸術家の矜持

今月1日、東京の渋谷駅構内で展示されている岡本太郎さんの巨大壁画「明日の神話」に、福島第一原発の事故を思わせる落書きが付け加えられる騒ぎがありました。

いたずらされた絵は、その日のうちに撤去されましたがツイッターで大きく話題となりましたので、ご記憶の方も多いと思います。

「明日の神話」は、第5福竜丸の被曝をテーマに、悲惨な体験を乗り越え、再生する人々のたくましさを描いたとされ、岡本太郎の代表作の一つといわれているものです。

落書きは、この作品の右下部分の空白に、複数の原子炉建屋から黒煙があがっている様子を書き加えられたというものですが、これに対して「作品への冒涇だ」と批判する声が出る一方、「おもしろいイタズラだ」「太郎さんなら歓迎するかも」などと支持する声もあったようです。

当初私は、原発に反対している方々のパフォーマンスなのかなと思っていましたが、18日になって「自分たちの仕業である」と男女6人組が名乗り出ました。このグループは、都内に拠点を置く自称芸術家グループで「チン←ポム」と称して活動しています。

メンバーの女性は「芸術家がすべきことをやっただけ」と主張しているようですが、本気でそう思っているなら、自分で自分のことを芸術家と称するのは止めるべきです。

岡本太郎記念館の平野館長は、朝日新聞の取材に「単なるいたずらではなく、芸術としてやろうとしたのではないか」とコメントしています。6人組の行動を擁護しているようにも感じますが、私には理解しかねます。パロディという表現方法がありますが、今回のように作品自体に手を加えるという行為は、如何なる理由があろうとも許されるものではないと考えるからです。

私は、かつて岡本太郎記念館に何度かいったことがあります。常に訪れる人が後を絶たず、亡くなってから15年経つ岡本太郎さんの人気の程が伺われました。

6人組は、この事件の直後に彼らの個展を予定しておりましたから、あるいは岡本さんの人気にあやかろうとしたのかも知れませんが、彼らの行為に対して、売名行為とか宣伝行為との批判の声が多く寄せられるのもやむを得ないことです。

彼らは、福島第一原発事故に関して「芸術家として何かしないといけないと思った」と述べているようですが、真にそう思うのであれば、自分たちのオリジナルな作品によってなすべきであり、また、そうする事によってでしか評価されることはないのだ、ということの特に出したいと思えます。(塾頭 吉田 洋一)